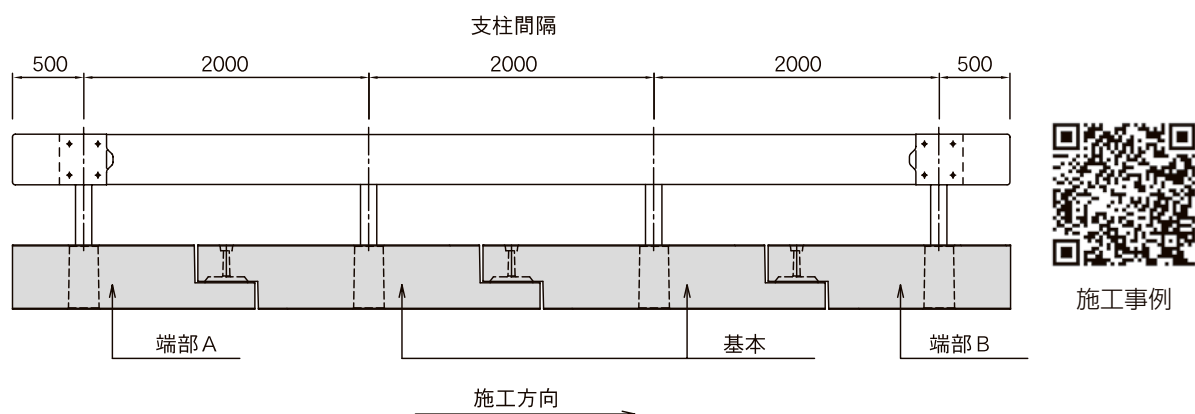


# 自在R連続基礎

## 特 長

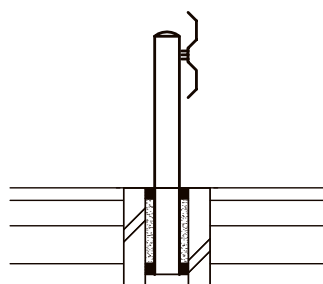
- ・自転車のチェーンをイメージし、カーブに自在に対応できるプレキャスト連続基礎となっています。
- ・地中埋設式の、現場打ち連続基礎と自在R連続基礎ブロックを比べると、型枠の設置やコンクリート養生に要する時間を短縮でき、さらに、強度の発生による供用開始までの期間が約1/3の施工期間で行うことができます。
- ・車両用防護柵標準仕様・同解説の連続基礎の設計を参考に、連続延長で衝突荷重を受け持つという考えで、安定計算をしています。



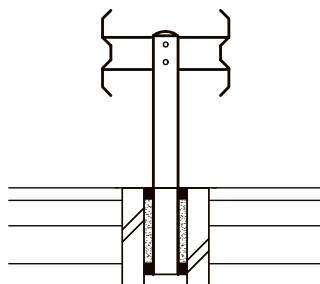
B型 幅400×高450	A型 幅630×高450	S型 幅650×高600	H型 幅750×高500

## ・ 使用例

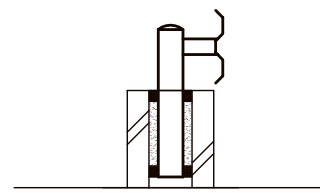
歩車道分離に設置



中央分離帯に設置



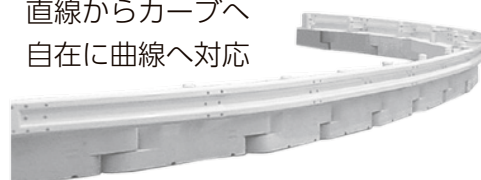
置き式基礎として設置



埋設使用 参考必要延長一覧表 (安全率 1.5)

種別	衝突荷重	現場打 連続基礎	自在R連続基礎		
			S型	A型	B型
A種	55kN	10m	20m※1	29m	—
B種C種	30kN	10m	10m※1	15m	28m

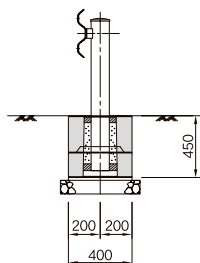
※1 S型の基礎延長は上記+1mとなります。

直線からカーブへ  
自在に曲線へ対応

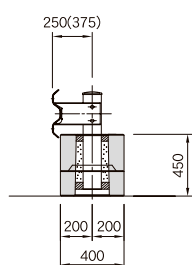
# 自在R連続基礎

## ・ B型(400×450) 支柱間隔 2.0m、1.5m、1.0m

[埋 設]



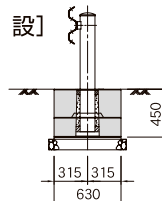
[置き式]



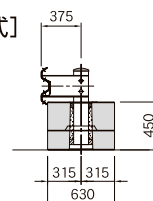
規格	基本	端部A	端部B
断面			
質量	778kg	547kg	566kg
規格	基本(1m)	端部A(1m)	端部B(1m)
断面			
質量	346kg	257kg	274kg

## ・ A型(630×450)

[埋 設]



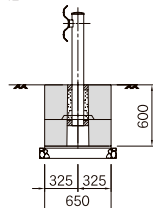
[置き式]



規格	基本	基本 3m	端部A	端部B
断面				
質量	1,202kg	1,846kg	820kg	883kg

## ・ S型(650×600) 支柱間隔 2m

[埋 設]



規格	基本	端部A	端部B
断面			
質量	1,690kg	1,178kg	1,241kg

# 自在R連続基礎

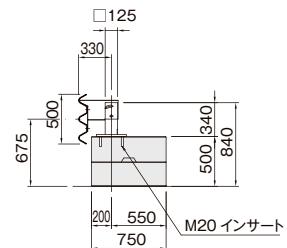
## ・ H型(750×500)支柱間隔1m

### 形状寸法

規格	基本	端部A	端部B
断面			
質量	1739kg	781kg	767kg

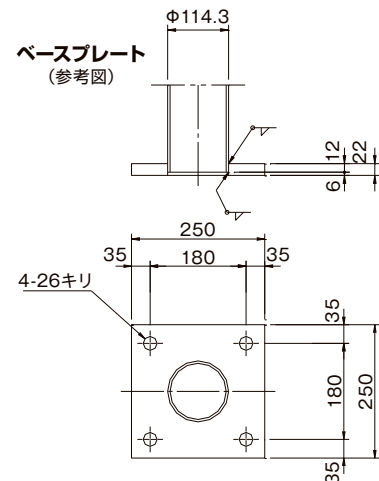
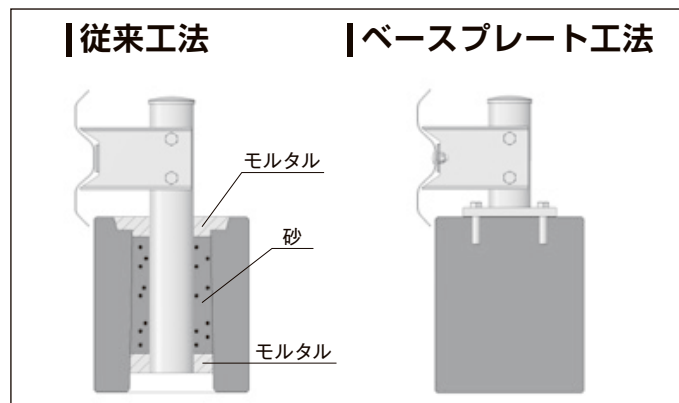
### [置き式]

#### 標準タイプ



## ・ ベースプレート式防護柵

H型防護柵の支柱は現在の穴式から、ベースプレート式になりました。ベースプレート式になった事により防護柵の設置作業が大幅に簡略化され、工期の短縮が可能となり、早期の道路開放ができます。



## 置き式使用

### ●参考延長一覧表 (安全率1.5)

衝突条件	衝突荷重	自在R連続基礎	
		A型 630×450	B型 400×450
A種	55 kN		
計算上の必要延長		26m	
B種 C種	30 kN		
計算上の必要延長		14m	B種33m C種34m

衝突条件	衝突荷重	自在R連続基礎	
		H型 750×500	
SB種	80 kN		
計算上の必要延長		24m	
SC種	60 kN		
計算上の必要延長		18m	

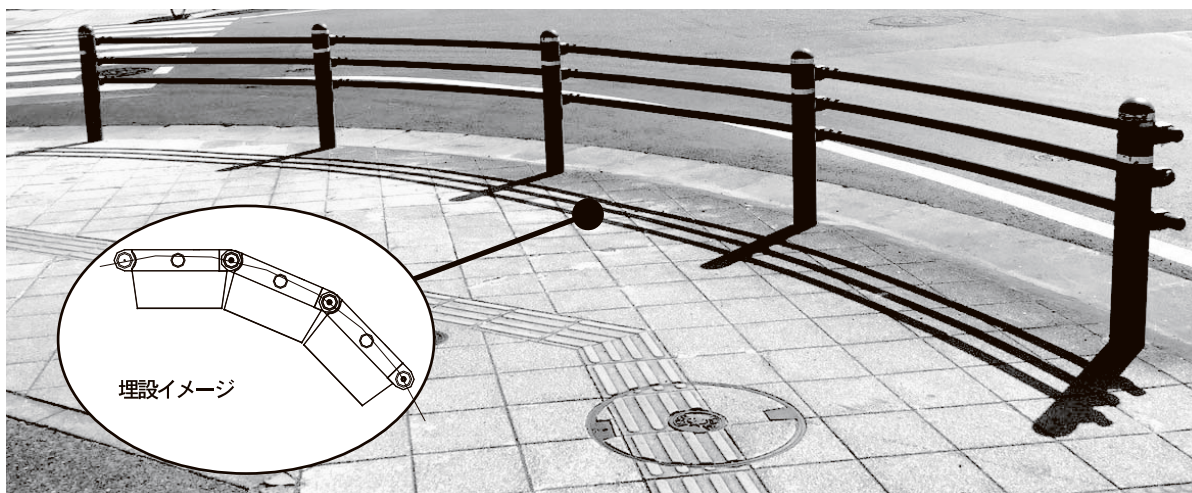
※現場状況に合わせて計算・提案させていただきますのでお問い合わせください。

# 自在R連続基礎

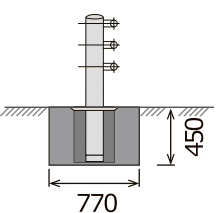
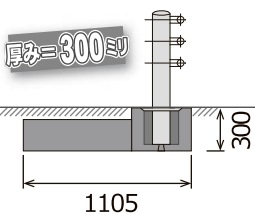
## ・交差点タイプ

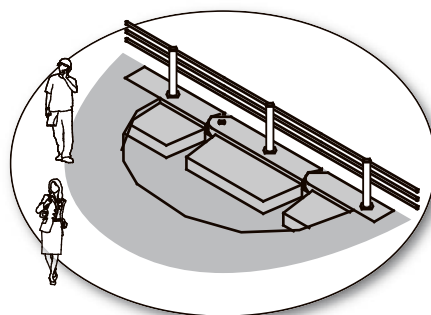
### 特 長

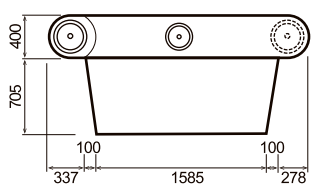
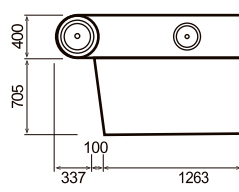
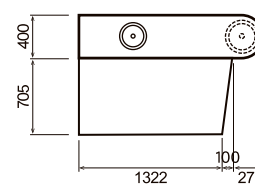
- ・短い延長（5m）で安全確保できます。（B・C種のみ）
- ・基礎高300mmと低いです。埋設物があり、防護柵の建込が出来ない所でも設置可能になります。



### ■安定計算

衝突条件	衝突荷重		現場打	自在R連続基礎
			連続基礎	250型 1105×300
B種 C種	30 kN	断面		
計算上の必要延長			10m	5m



規格	基本	端部A	端部B
断面			
質量	1157kg	895kg	900kg